

2020年度持田記念学術賞ならびに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2020年度の持田記念学術賞受賞者、ならびに研究助成金および留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には16名の研究者が推薦され、その中から慶應義塾大学の佐藤俊朗博士と東京大学の胡桃坂仁志博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成および留学補助には696件の申請があり、研究助成金交付対象者115名（300万円/件）、留学補助金交付対象者20名（50万円/件）を選出しました。

今年度は研究者招聘助成金交付対象10学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額3億8000万円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	13件	4件	2件	10件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	17件	3件		
領域3	免疫/アレルギー/炎症の治療ならびに制御に関する研究	21件	5件		
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	24件	4件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	23件	2件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	17件	2件		
合計		115件	20件	2件	10件

当財団は1983年10月の設立以来、研究助成2349件（計46億1399万円）、留学補助551件（計2億7550万円）、持田記念学術賞74件（計3億9200万円）、研究者招聘助成281件（計1億3996万円）の総額54億2145万円の助成ならびに贈呈を行っております。当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団 zaidan@mochida.co.jp

2020年度持田記念学術賞受賞者



佐藤 俊朗（さとう としろう）博士

慶應義塾大学 医学部

坂口光洋記念講座 オルガノイド医学 教授

受賞研究テーマ

「オルガノイド技術による臨床消化器疾患の生物学的理解」

佐藤博士は、マウス小腸腸管上皮幹細胞の自己複製に必要な niche 因子群を同定し、三次元構造体を作り出す培養技術としてオルガノイド培養を確立しました。その技術を様々な消化器組織に応用し、組織幹細胞の洞察を深める研究を展開してきました。ヒトの炎症性腸疾患の大腸上皮細胞に特定の体細胞遺伝子変異が蓄積することを見だし、その病態への関与を示しました。また、オルガノイドを用いたヒトの上皮再生医療への取り組みも進めております。

さらに、がん領域においては大腸がんモデルに応用し、遺伝子変異導入による人工的な大腸上皮発がんを世界で初めて実証し、発がんメカニズムへの洞察を深めました。また、消化器がん患者組織のオルガノイドライブラリーを構築し、世界中に提供することにより国際的研究を促進しております。

佐藤博士のオルガノイド技術をもとにした組織幹細胞の研究、由来疾患の分子病態解明、再生医療の研究、オルガノイドライブラリーの提供は消化器疾患の病態解明や治療法の開発につながることで期待される、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1972年11月24日生 | |
| 1997年3月 | 慶應義塾大学 医学部 卒業 |
| 2004年3月 | 慶應義塾大学 大学院医学研究科 博士号取得 |
| 2006年4月 | 米国 Stowers 研究所 博士研究員 |
| 2007年6月 | オランダ Hubrecht 研究所 博士研究員 |
| 2011年4月 | 慶應義塾大学 医学部 消化器内科 特任助教 |
| 2011年7月 | 慶應義塾大学 医学部 消化器内科 特任講師 |
| 2016年4月 | 慶應義塾大学 医学部 消化器内科 准教授 |
| 2018年11月 | 慶應義塾大学 医学部 坂口光洋記念講座 教授 |

○主な受賞歴

- | | | | |
|-------|----------|-------|------------|
| 2018年 | 日本学術振興会賞 | 2018年 | 日本学士院学術奨励賞 |
|-------|----------|-------|------------|

2020年度持田記念学術賞受賞者



胡桃坂 仁志 (くるみざか ひとし) 博士

東京大学 定量生命科学研究所 教授

受賞研究テーマ

「エピゲノム創薬のクロマチン構造基盤の構築」

胡桃坂博士は、試験管内でクロマチンを再構成する技術を活用し、基盤構造であるヌクレオソーム群の立体構造をX線結晶構造解析やクライオ電子顕微鏡解析により解明し、エピゲノム制御分子がクロマチン構造制御を介してゲノム機能を調節する仕組みを次々と明らかにしてきました。

さらに、ヌクレオソーム構造をとるDNAからRNAポリメラーゼIIが転写を行うシステムを試験管内で再現し、その立体構造を明らかにすることによりクロマチンにおける転写機構を世界で初めて三次元構造として可視化することに成功し、ヌクレオソームが発見されて以来長年ブラックボックスであったクロマチン上での転写伸長反応の根幹を明らかにしました。

エピジェネティックなゲノムの変化は悪性腫瘍など多くのヒト疾患の原因となることも明らかになってきており、胡桃坂博士のこれらのクロマチン再構成技術によるエピゲノム制御にかかわる研究成果はエピゲノム創薬研究の基盤を提供するものであり、多くの疾患に対する病態解明や治療法の開発につながることを期待される、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴 1967年1月30日生
- 1989年3月 東京薬科大学 薬学部 卒業
- 1995年3月 埼玉大学 大学院理工学研究科 修了 博士
- 1995年4月 理化学研究所 奨励研究員
- 1995年6月 米国 National Institutes of Health 博士研究員
- 1997年6月 理化学研究所 研究員
- 2003年4月 早稲田大学 理工学部 助教授
- 2008年4月 早稲田大学 先進理工学部 教授
- 2018年4月 東京大学 定量生命科学研究所 教授

○主な受賞歴

- 2018年 日本生化学会 柿内三郎記念賞